

# 緑のまきば

2007 No.40  
 小金井緑町教会  
 電話 〇四二・三八一・七九六一  
 牧師 山畑 謙

## 説教

### 『希望のしるし』

山畑 謙

「我は復活よみがえりなり、生命いのちなり、

我を信ずる者は 死ぬとも生きん。」

(ヨハネ傳一章二五節)

二〇〇七年四月八日のイースター(復活祭)は、私たち小金井緑町教会にとって特別に記念すべきイースターとなりました。それは教会墓所をもつことができた記念の日だからです。小金井緑町教会墓所は、所沢聖地霊園の一区画に、念入りな吟味・構想をへて遂に完成し、このイースターの献墓礼拝をもって、その働きをスタートしました。この墓所建設の志を与えられ、具体化していく中で、改めて私たちの信仰において、また教会にとって墓所とはどのような意味や意義を持つものであるのかを

考えさせられました。その結果が、「小金井緑町教会墓所規則」の前言に、次のようにまとめられています。

「我らは主の召しによってキリストの体である小金井緑町教会の一員とせられ、共に一つの礼拝にあずかり、信仰にある交わりを与えられてきている。その信仰の歩みは、この地上から御国へと向かうものである。アブラハムが亡くなった妻サラのためにヘト人より墓所を購入して埋葬したように、我らも主の御旨によって天に召された愛する兄弟姉妹とその家族の

ために、墓所を求めた。

主の日ごとに一つの礼拝にともにあずかった我らは、この教会墓所という一つのところで主の再び来たり給うを待ち望む。我らは墓所において、故人が生前上より与えられた豊かな恵みを想起しつつ故人を記念し偲ぶものである。また、主イエスが十字架に死んで墓に葬られ、三日目によみがえられて墓が空になったように、主が再び来たり給うその時、この墓も空となり、御国において再び愛する兄弟姉妹と相見えることを堅く信じる。

我らは教会の業として、復活の主を信ずる信仰の証し、また御国に入れられる希望のしるしとして、御霊の助けのうちに教会墓所を設けるものである。」

教会は礼拝を共に守る共同体ですが、それは一つの御言葉(その御言葉の解き明かしである説教)にあずかる群れであるということなのです。毎週、毎週、まさに一つのパンを分かち合う神の家族なので、教会は、そういう群れであり、そういう歴史を持つ共同体です。墓には一人一人の名が刻まれます。その名前には一人一人の貴い人生の歴史がこもっています。そ

れぞれ固有の歴史でありながら、同時に共有した歴史、すなわち小金井緑町教会で共に守った礼拝の歴史が伴っているのです。一つの御言葉にあずかる礼拝を共にした歴史です。墓はそういう歴史の上に立っているのです。そしてそういう恵みの歴史がきちんと土台として据えられている時にこそ、私たちの眼差しは未来へと向かうことができるのです。

イースターのよき日に、献墓礼拝を守ることができたのは、実に幸いなことでした。なぜならば、この墓は、代々の聖徒から受け継がれてきたところの、復活の主を信ずる信仰の証しなのです。初穂としての主に倣って、やがて私たちも復活にあずかるという信仰と希望が受け継がれて、今日の私たちの礼拝や教会生活もあるわけです。その信仰と希望の証しとして教会墓所をもうけることを主がゆるし、祝してくださいました。この業をとおして、私たちの過去(歴史)・現在・未来(希望)が、信仰の恵みによって貫かれています。この恵みを感謝しつつ、御国をめざして、今日の神と隣人とを愛する歩みへと踏み出しましょう。